

## 「推進区域」の設定に係る病院機能分化・連携WGにおける主な意見

- 病床機能報告では急性期と報告していても、回復期の取組みや、在宅や介護に対する支援を積極的に行っている医療機関が増えてきている。この地域の病床は、実態として回復期を含めた包括医療の方向に着実に進んでいる。
- この地域は、専門的で急を要する病気も地域内でしっかり受け止めて対応している。そうした病床を上手く活かして地域医療を考えていくべき。
- 推進区域に選ばれた理由は、病床数の乖離の問題だが、数の問題だけでなく、下り搬送の連携、在宅や介護との連携、デジタル技術の活用など、この地域の特徴を考えることが、2040年に向けてこの地域がやるべきことをまとめる機会になる。